

### 30. 高気圧酸素療法に於ける聴器障害予防を目的として作成された耳栓 hep/02の使用経験

保正美佐子\*1) 塚本榮治\*2)

〔\*1)脳神経外科塚本病院高気圧治療部〕  
〔\*2) 同 脳神経外科〕

【目的】高気圧酸素療法(以下HBO)に合併する気圧外傷の中で最も多いのが、聴器外傷であり耳痛・耳閉感・耳の異和感を訴える患者が多い。私達は最近、HBO時の聴器外傷予防の目的で作成された hep/02を使用する機会を得たので報告する。

【方法】 hep/02を使用しなかった1997年1月1日から同年5月31日まで(耳栓未使用期間)のHBO治療患者121名と hep/02を使用した同年6月1日から同年12月31日まで(耳栓使用期間)の192名を検討の対象とした。耳症状の発生率、耳鼻咽喉科受診率、鼓膜切開・チュービングなどの耳鼻科的処置を受けた患者数を比較した。

【結果】耳栓未使用期間の121名中耳の症状を訴えた患者は62名(51.2%)で、そのうち49名(79%)が耳鼻科を受診した。さらにそのうちの17名(34.7%)が耳鼻科的処置を受けた。耳栓使用期間に耳の症状を訴えた患者は192名中113名でそのうちの95名に耳栓を使用した。そのうち82名(86.3%)耳鼻科を受診した。さらに耳鼻科的処置を受けた患者は13名(15.9%)であった。

【考察】聴器損傷は外耳道と中耳の圧力差がある場合に発生する。耳管の狭窄や閉塞がある場合は必発であるが、耳管に異常がない場合でも急激な加圧や減圧で発生する可能性がある。私達の施設では患者の訴えを観察しながら慎重な加圧減圧を行っているが、それでも耳鼻科的処置を必要とした患者が34.7%に達した。 hep/02は軟性シリコン製の耳栓で内外に通じる空気孔にセラミック・フィルターがありこのフィルターの働きで鼓膜への急激な圧変化が軽減されるという。鼓膜切開などの耳鼻科的処置が15.9%に減少したことから、有用であるといえるが、さらに症例を重ねたい。

### 31. 高気圧酸素治療(HBO)時における、セラミック製圧力調整器付シリコン耳栓の有用性

平井 誠 福澤彰人 斉藤久寿

(札幌麻生脳神経外科病院高気圧酸素治療室)

【目的】当院では、'85年開院以来主として中枢神経(脳脊髄)及び末梢神経(脳神経)の急性期、慢性期に対しHBOを施行している。治療を行う上でいかに患者の耳の不快感(耳痛、耳閉感)を軽減させ快適に治療を受けてもらえるかが開院以来の課題である。今回、中耳、内耳に気圧の変化を遅らせることによって耳の不快感を軽減させる耳栓 hep/O<sub>2</sub> (CIRRUS AIR TECHNOLOGIES社製)を使用し有用性を検討し報告する。

【対象・方法】'97年10月4日から'98年2月27日の間に意識レベルの清明な患者100名(男68名、女32名、11歳~83歳、平均年齢64歳、治療平均回数13回)に対し耳栓 hep/O<sub>2</sub>を使用した。治療1回目、2回目、3回目、治療終了後、終了1W後での耳の不快感ならび耳栓を使用することによる安心感について評価し、'96年度データと比較検討を行った。

【結果】'96年度データと比べると全体的には耳痛、耳閉感に対して効果が見られたが治療初期の1~3回目に劇的な改善は見られなかった。しかし、心理的な要素として治療に対する不安感の軽減に少なからず効果があったと推測される。

【結語】① hep/O<sub>2</sub>が本当に内耳内での圧力差を遅らせることが出来たのか。

②心理的な不安感を取り除くことは治療前後のオリエンテーションを適切に行うことによってかなり改善でき、コスト面から見てもそれだけでは hep/O<sub>2</sub>の導入には至らなかった。

③過去の経験ではスピードを遅くするだけで耳痛等をおさえるのは困難と思われ、これからも様々な角度から改善を考えたいと思う。